

概要

日本語における「～ようと」という意志を表すモダリティ (形態統語論および意味論からの視点)

序論

それぞれの言語は特色がある。インドネシア語と日本語でも特色がある。例えば、インドネシア語での *mau* と *ingin* の使用である。*Mau* と *ingin* の意味は似ているので、*mau* と *ingin* を使用するとき、よく間違いをしている。日本語では、*ingin* を表すときに、「～たい」の形を使って、*mau* を表すときに、「～ようと」の形を使う。「～たい」という形は「希望を表す表現形式である」。「～ようと」という形は「何らかの決意をした時点における意志の表明である」と坂田と倉持(1980: 30&100)が述べている。

日本語では「～たい」は願望というモダリティに含むが、「～ようと」は意志というモダリティに含む。モダリティというのは「現実との関わりにおける、発話時の話し手の立場からした、言表事態に対する把握の仕方、および、それらについての話し手の発話・伝達の態度のあり方の表し分けに関わる文法表現である。」と仁田(1991: 18)が述べている。

この研究では日本語における「～ようと」という意志を表すモダリティのことについてのことである。意志を表すモダリティは動詞の「～よと思う」、「～よとする」、「～よと+他の動詞」という形を使う。この研究で小説とインターネットのデータを使い、「～よ」という意志を表すモダリティのことを理解することができるのを期待する。

本論

筆者は 54 個のデータを集めた。その中で「動詞の～よと思う」は 20 個、「動詞の～よとは思いません」は 2 個、「動詞の～よとする」は 22 個、「動詞の～よとしない」は 5 個、そして「動詞の～よ

と+他の動詞」は5個である。それらは「～ようと」という意志を表すモダリティを示している日本語の文章である。

1. 「動詞の～ように思う」

「寝室の一つをあけて、中をけんさしようと思ったがあかない。」(B, 1983: 75)

そのデータにある動詞は形態的な変化をした。この形態的な変化は「けんさする」という意志動詞と「よう」という助動詞を組み合わせた。そして、データの主語は「私」なので、「と思う」を追加した。動詞「けんさする」は活動を示す継続動詞に含む。このデータのモダリティという意味は話し手がずっと前から寝室をけんさするという気持ちがあった。

2. 「動詞の～ようにする」

「彼らは離婚しようとしている。」
(<https://ejje.weblio.jp/sentence/content/>)

そのデータにある動詞「離婚しよう」は形態的な変化の結果である。その形態的な変化は「離婚する」という意志動詞と「よう」という助動詞を組み合わせた。そして、「離婚しよう」という意志形に「としている」に付いている。主語は「彼ら」という第三人称なので、「としている」を使った。動詞「離婚する」は瞬間の動詞を示す瞬間動詞に含む。データでモダリティという意味は主語は話し手ではなく、彼らが離婚するという意志があった。

3. 「動詞の～ようにしない」

「短大を出たあと、勤めようともしなかった。」(AK, 1976: 15)

上のデータにある「勤めよう」という意志形に付いている「ともしない」は意志がないことを表すモダリティである。そして、そのデータは過去の活動なので、過去形を使った。それから、「しなかった」のまえに「も」に付いていた。上の動詞に「勤める」から「勤めよう」という形態的な変化が起こった。動詞「勤める」は活動を示す継続動

詞に含む。主語は話し手ではなく、第三人称である。第三人称はもう短大を出たのに、勤めるという意志がなかった。

4. 「動詞の～ようと+他の動詞」

「祇王は、築地に開いた穴から這い出ようと、からだをかがめた。」

(TNYF,1995: 37)

データにある動詞に「這い出る」から「這い出よう」という形態的な変化が起こった。そして、「這い出よう」と「と」という助詞を組み合わせた。「と」という助詞は意志的な行為をするまえにある活動を表す。動詞「這い出る」は意志動詞の一つであり、活動を示す継続動詞に含む。主語は話し手ではなく、「祇王」という第三人称である。上のデータには祇王という第三人称が穴から這い出るまえに、からだをかがめるという意志を表すモダリティである。

結論

1. 日本語の文における「～ようと」という意志を表すモダリティの用法は次のようである：

意志を表すモダリティは意志を表す動詞と「よう」という助動詞を組み合わせて、「～と思う」または「～とする」または「～と+他の動詞」に付く。「～と思う」は第一人称の意志しか使うことができない。「～とする」は第一人称と第三人称の意志を使うことができる。そして、「～と+他の動詞」は第一人称と第三人称の意志を使うことができる。

2. 日本語の文における「～ようと」という意志を表すモダリティの意味は次のようである：

- 「～よと思う」は第一人称の意志を表すときに使う。そして、現在の意志を表すときに使う。
- 「～よと思っている」は第一人称の今までまだ残っている意志を表すときに使う。

- 「～ようとは思いません」は第一人称の意志がないことを表すときに使う。
 - 「～ようとする」は第一人称の意志を行うために努力があるときに使う。
 - 「～ようとしている」は第三人称の意志を行うために努力があるときに使う。
 - 「～ようとしなない」は第三人称の意志がないことを表すときに使う。
 - 「～ようと+他の動詞」は第一人称と第三人称の意志を行う前に、他の活動をするのを表すときに使う。
3. 「～ようと」に付く動詞の種類は次のようである：
- 「～ようと」に付く動詞は意志動詞しか使うことができない。
 - 「～ようと」のモダリティは継続動詞と瞬間動詞を使うことができる。しかし、瞬間動詞は、意志を表す動詞しか使うことができない。

DAFTAR ISI

HALAMAN JUDUL	i
HALAMAN PENGESAHAN	ii
HALAMAN PERNYATAAN ORISINALITAS	iii
PERNYATAAN PUBLIKASI SKRIPSI.....	iv
KATA PENGANTAR.....	v
DAFTAR ISI.....	vii
BAB I PENDAHULUAN.....	1
1.1 Latar Belakang Masalah.....	1
1.2 Rumusan Masalah	7
1.3 Tujuan Penelitian.....	7
1.4 Metode Penelitian dan Teknik Penelitian.....	7
1.5 Organisasi Penulisan	9
BAB II KAJIAN PUSTAKA	10
2.1 Morfosintaksis	10
2.1.1 Morfologi	10
2.1.2 Sintaksis	11
2.1.2.1 Frase	12
2.1.2.2 Klausa.....	13
2.1.2.3 Kalimat.....	15
2.2 Semantik.....	16
2.2.1 Semantik Leksikal.....	17
2.2.2 Semantik Gramatikal.....	18
2.3 <i>Hinshi</i> (品詞).....	19
2.3.1 <i>Doushi</i> (動詞)	20
2.3.1.1 <i>Ishi Doushi</i> (意志動詞).....	23
2.3.1.2 <i>Muishi Doushi</i> (無意志動詞).....	24
2.3.2 Makna Verba.....	25
2.4 Modalitas	27

2.5	~ようと	29
2.5.1	V-ようと思う	30
2.5.2	V-ようとする	33
BAB III ANALISA MODALITAS KEMAUAN ~YOU TO (~ようと)		
DALAM KALIMAT BAHASA JEPANG		36
3.1	V-ようと思う	37
3.2	V-ようとは思いません	48
3.3	V-ようとする	50
3.4	V-ようとしない	64
3.5	V-ようと+他の動詞	71
BAB IV SIMPULAN		78
DAFTAR PUSTAKA		81
SINOPSIS		ix
LAMPIRAN		xiii
RIWAYAT HIDUP		xxiii

